

台風第 25 号の影響に伴う農作物被害防止対策

令和 8 (2026) 年 9 月 18 日
栃木県農政部経営技術課

令和 8 年 9 月 18 日 04 時 45 分気象庁の発表によると、大型の台風第 25 号は小笠原近海にあり、北西へ進んでいます。台風はその後も非常に強い風を伴う勢力を保って北上し、20 日から 21 日頃にかけては進路を北から北東に変えながら進み、東日本の太平洋側に接近する可能性があります。

この影響で、関東地方を中心に大雨となる所がある見込みです。進路によっては県内においても大雨や強風等の影響が懸念されることから、以下の技術対策について早めに準備を行い、被害の未然防止を図りましょう。

I 共 通

1 大雨対策

- (1) 大雨による冠水等が懸念されるので、排水路の点検を行い、浸水及び冠水時の速やかな排水に備える。
- (2) ゴミや刈り払った雑草が水路を塞がないよう、事前に取り除いておく。
- (3) 大雨により浸水する可能性のある電気設備の防水対策を講じておく。

2 停電に備えた対策

- (1) 停電で使用できなくなる機器を事前に確認しておく。
- (2) 発電機を準備し、施設及び作業に必要な最低限の電力を確保する（ガソリン発電機、トラクター動力発電機等）。また、試運転を行うとともに、燃料を確保しておく。
- (3) 停電後、制御装置の設定が初期化される場合があるので、発電機を稼働後に動作確認する。

3 防風網・防鳥網・多目的防災網等の点検、補修

- (1) 網が飛ばされたり破られたりしないよう固定状況を点検するとともに、破損部があると強度が低下するので補修しておく。
- (2) 網目の細かい多目的防災網等は、網の外側に支柱等を立て棚線に固定する。

4 ハウスの点検、補修、補強

- (1) 被覆資材の破損部や固定が不十分なところがないか点検し、補修しておく。
- (2) 筋交いにより奥行き方向への倒壊を防止する。また、ハウスの肩部を引っ張り資材や、つかえ棒で補強し、骨材の変形を防止する。
- (3) 使用していないハウスは、天井や妻面のビニールをはずして風を抜けやすくし、施設の損壊を防ぐ。

5 事後対策の準備

- (1) 台風による被害に備えて、速やかに回復措置がとれるよう、排水対策や施設等の修復、病害防除等の準備をしておく。

6 農作業安全の確保

- (1) 台風が接近した時は人的安全を最優先とすること。
- (2) 気象庁が発表する最新の台風情報を入手し、**台風の接近時や通過時は農作業を中断するとともに、台風通過後は、周囲の状況を十分に把握し、身の安全を確保した上で農作業を再開する。**
- (3) 暑熱環境下で作業を行う場合は、熱中症対策として、**高温下での長時間作業を避け、こまめな水分と塩分の補給や休憩を取る**ように心掛ける。

Ⅱ 普通作物

1 水 稻

- (1) 大雨により冠水したほ場は、速やかに排水に努める。
- (2) ほ場にゴミなどが流入した場合は、刈取の妨げにならないよう取り除く。
- (3) 降雨後に高水分の粳を収穫・乾燥・調製する際には、別紙の対策により品質低下を防ぐ。

2 大 豆

- (1) 大雨による冠水及び浸水等に備えて、排水溝の点検をしておく。
- (2) 葉焼病や斑点細菌病を予防するため、台風通過後に登録薬剤を散布する。

3 そば

- (1) 大雨による冠水及び浸水等に備えて、排水溝の点検をしておく。

Ⅲ 野 菜

1 全 般

- (1) 強風対策として、ハウスやネットの点検・補修・補強を行う。
- (2) 大雨によるほ場の冠水及び浸水が懸念されるので、排水対策に努める。
- (3) 大雨により病気が発生しやすくなるので、必要に応じて台風通過前後に薬剤防除を実施する。

2 いちご

- (1) 炭疽病・うどんこ病が発生しやすくなるので、台風通過前後は薬剤防除を実施する。
- (2) 育苗及び本ぼハウスの強風・排水対策(補強、修繕、ハウス周辺排水対策)を行う。

3 夏秋なす

- (1) 強風による損傷や倒伏を軽減するため、茎や枝を支柱やネット、誘引線によく固定しておく。また、被害を軽減するため、収穫可能な果実は早めに収穫する。

Ⅳ 果 樹

1 全 般

- (1) 大雨に伴い病害の発生が懸念されるため、降雨前の防除を徹底する。
- (2) 大雨によるほ場の冠水及び浸水が懸念されるので、排水路(明きょ)を設置するなど排水対策を行う。
- (3) 収穫期を迎えた品目や品種は、品質劣化を防止するため、果実の熟度を確認しながら適期収穫を徹底する。
- (4) 台風通過後には、強風によるかく乱のためカメムシ類の飛来が一時的に増加するおそれがあるので、果樹園への侵入状況を注視して適宜防除する。

2 なし・ぶどう等(棚仕立て果樹)

- (1) 強風による枝や果実の損傷を防止するため、結果枝等を棚に誘引し固定しておく。

3 りんご等(立木仕立て果樹)

- (1) 強風による枝や果実の損傷等を防止するため、側枝等の太枝に支柱を設置したり、結果枝同士を結束するなどして固定しておく。
- (2) りんごのわい化栽培は、主枝等をトレリスへしっかりと固定し倒木を防止する。
- (3) 着色向上のための反射シートは、風で飛ばされないよう片付ける。

4 苗 木

- (1) 強風による損傷・倒伏を軽減するため、支柱に固定しておく。特に、育苗中の大苗は損傷・倒伏しやすいので十分注意する。

V 花 き

1 全 般

- (1) 強風対策として、ハウスやネットの点検・補修・補強を行う。
- (2) 大雨によるほ場の浸水及び冠水が懸念されるので、排水対策に努める。
- (3) 大雨により病気が発生しやすくなるので、必要に応じて薬剤防除を実施する。

2 露地ぎく・露地りんどう

- (1) 強風対策として、支柱やネットのゆるみを直し、十分に補強する。ネット上げの作業が遅れている場合は、風による茎の曲がり防止するため、所定の位置までネットを上げておく。
- (2) ほ場が冠水しないように、事前に排水溝を設けるなど、対策を講じておく。特に、病気が発生しやすくなるので、台風通過前後に薬剤防除を実施する。

VI 特用作物

1 こんにゃく

- (1) 大雨による冠水及び浸水等が心配されるので、排水溝等の点検をしておく。
- (2) 腐敗病等を予防するため、台風通過後に登録薬剤を散布する。

VII 畜 産

1 畜 舎

- (1) 強風対策として、カーテン等の固定状況を点検し、補修、補強をしておく。
- (2) 雨水の流入が懸念される場合は、土のう等により対策を講じておく。
- (3) 車両や飼料、機器を水没しない場所へ移動しておく。
- (4) 大雨により浸水する可能性のある電気設備の防水対策を講じておく。
- (5) 堆肥舎への風雨の吹き込みにより堆肥や汚水が流出しないよう対策を講じる。
- (6) 堆肥をほ場に一時置きせず、速やかに散布・耕起し、ほ場外への流出を防止する。
- (7) 風雨により畜舎が破損して外部から野生動物が侵入しないよう畜舎を点検する。

2 飼料用とうもろこし

- (1) 大雨により冠水した場合は湿害が懸念されるので、ほ場の排水路を確保する。
- (2) 絹糸抽出期前に被災した場合、折損していないものや軽微な倒伏は回復する可能性があるため、生育状況を良く確認し適期収穫に努める。
- (3) 絹糸抽出期後に倒伏等した場合は、不良発酵を防ぐために早期に収穫する。水分が高い場合や土が付着している場合は不良発酵の原因になるので、乾草との混合や乳酸菌の添付を検討する。

3 停電による搾乳不能に備えて

- (1) 発電機を準備し、燃料を確保しておく。
- (2) 停電時に搾乳する場合は高泌乳の牛から行い、濃厚飼料の給与を控えることで乳量を抑え、乳房炎を予防する。

VIII 農地・農業水利施設について

- (1) 農地の冠水が予想される場合は、用排水路の点検や補修を行う。
- (2) 特に田んぼダムを設置している農地では、排水枡・畦畔の点検や補修を行い、田んぼダムの効果が発現するよう努める。
- (3) 農業水利施設の巡視、動作点検(堰のゲート開閉等)、事前操作を行う等、適切な施設管理を実施する。
- (4) 特に、ため池の被害防止のため、事前に洪水吐・堤体等の点検、洪水吐の閉塞の原因となる流木、浮遊物の除去等を行うとともに貯留水の放流による水位低下に努める。

- (5) 災害発生後、最新の気象情報を収集し、土砂災害、河川の増水や氾濫に注意するなど、身の安全を確認した上で農地や農業水利施設の巡視及び点検を行う。
- (6) 被害が確認された場合は、市町や農業振興事務所へ速やかに連絡する。

○農薬ラベルの読み上げ運動

農薬の誤使用を防ぐため、農薬使用前には必ず**農薬ラベル**を指さしながら声に出して**読み上げ確認**を行いましょう！



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！

身支度も
万全にし
てまる！

- ①農薬容器のラベルをよく読み正しく使う（※）
- ②農薬の飛散防止を徹底する
- ③農薬の使用状況を正確に記帳する

※既に購入されている農薬について、ラベルどおり使用できない場合もありますので、メーカーのチラシや県のホームページ等、最新の情報をご確認ください。

栃木県農業総合研究センター 検査指導課

検索

CLICK!

（注意）

- ※ 農薬の使用に当たっては、使用基準（適用作物、希釈倍数、使用時期、使用回数等）を厳守する。同一成分の使用回数にも制限があるので注意する。
- ※ 農薬散布に当たっては、天候が回復した後の急激な気温上昇により薬害等が生じるおそれがあることから、事前に登録内容をよく確認のうえ使用するとともに、散布時の飛散防止に十分注意する。



農作業中の熱中症に注意しましょう

- ・こまめな休憩、水分、塩分補給を行いましょう
- ・単独作業は避け、一人作業の場合は携帯電話を持ちましょう
- ・体調不良を感じたら、すぐに作業を中断し、涼しいところで休みましょう

高水分粃を収穫・乾燥・調製する際の注意点

令和8年9月11日
栃木県農政部経営技術課

今年は収穫期の長雨とそれによる倒伏の影響でやむを得ず水分の高い状態で収穫を余儀なくされると考えられます。活発な秋雨前線や湿った空気の影響を受けやすいため向こう1か月の降水量は平年並か多い予報となっていることから、以下の点に注意して収穫・乾燥・調製を行ってください。

- ① 倒伏の著しいほ場や粃水分 25%以上で収穫する際には、作業速度を抑える、もしくは、刈り取り条数を減らしてください。

倒伏部分や高水分粃を無理矢理刈り取ると選別不良や損傷粒の発生、コンバインのつまりにつながります。

- ② 張り込み量を少なくして下さい。

高水分粃は重く、乾燥機内の循環速度低下やつまりにつながります。総容量の7割程度で運転することで均一に風を循環させ水分ムラを防ぐことができます。

- ③ 収穫後は即張り込み、すぐ送風（通風）を行ってください。

高水分の粃は非常に蒸れやすく、タンクの中に数時間放置するだけで熱を持ち、着色粒やカビの発生を助長させ品質低下が進みます。

- ④ 乾燥初期は低温で乾燥してください。

高水分粃を高温で乾燥すると胴割れ米の発生が増加します。高水分粃は乾燥機への張り込み後通風乾燥を行い、その後は35℃程度の低い温度で乾燥を始め、逐次昇温し乾燥速度を上げます。乾燥機の毎時乾減率は0.8%以下に設定し、品質の低下を防止してください。また、夜間休止乾燥や二段乾燥を行うと、胴割れ米の増加防止や燃料の節減等が図られます。

『夜間休止乾燥』：粃水分が18%になった段階で乾燥を一時休止し、翌朝仕上げ乾燥する方法。

『二段乾燥』：粃水分が18%になった段階で乾燥を中断して、1日程度（24時間）常温通風した後、仕上げ乾燥する方法。

- ⑤ 粃の温度が下がってから粃すりしてください。

乾燥直後の温かい粃は胴割れ米になりやすいため、常温近くに下がってから行い、肌ずれ防止のため脱ぶ率が80～85%になるように調節しましょう。

- ⑥ 共同乾燥施設を有効に活用してください。

保有している乾燥機が使用できない場合は共乾施設を有効に活用して下さい。

9～11月は「秋の農作業安全確認運動」の実施期間です



- ・安全キャブ・フレームのある機種を使用する、または後付けする
- ・シートベルトとヘルメットを着用する
- ・日没前の作業終了と一般道走行に備えて灯火器類の装着、点検をする
- ・わら詰まり等の解消はエンジンを止めてから行う
- ・機械作業者と補助作業者間で、双方向の安全確認を行う

